

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	訓練実施中、セーラー渡過からモンキー渡過に移行（ターン）をする際、右膝を負傷。
3. 体験した事例の中心的要素	訓練回数を重ねる中での注意力と判断力の低下。
4. 体験した事例の原因・理由	訓練を反復することにより慣れが生じていた。確実性よりも迅速性を優先させていた。

【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 20 年 5 月 9 日 午後 4 時頃
2. 発生した当時の天候	曇
3. 発生した活動現場	屋外：災害現場での進入を想定し、水平に展張したロープ上。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：進行方向（ターン）を変える際、右膝を負傷。
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [救助（大会に向けた訓練）]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	渡過訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[20]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[0.5]年、階級[消防士]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	救助訓練のための設営（準備）開始。	
経過2	〃	設営（準備）完了。準備運動開始。	
経過3	〃	救助訓練開始。	
経過4	〃	午前の救助訓練終了。	
経過5	〃	午後の救助訓練開始。	
経過6	〃	休憩（30分）をとる。	
経過7	〃	救助訓練再開。	
経過8	〃	事故発生。	
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。危険情報を把握、予見できなかった。危険事象の対応方法を知らなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	はい

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	はい

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

訓練の進め方を職員に応じた段階的なものにする事や訓練前、訓練時に異常を感じた職員に自己申告の徹底を指導した。

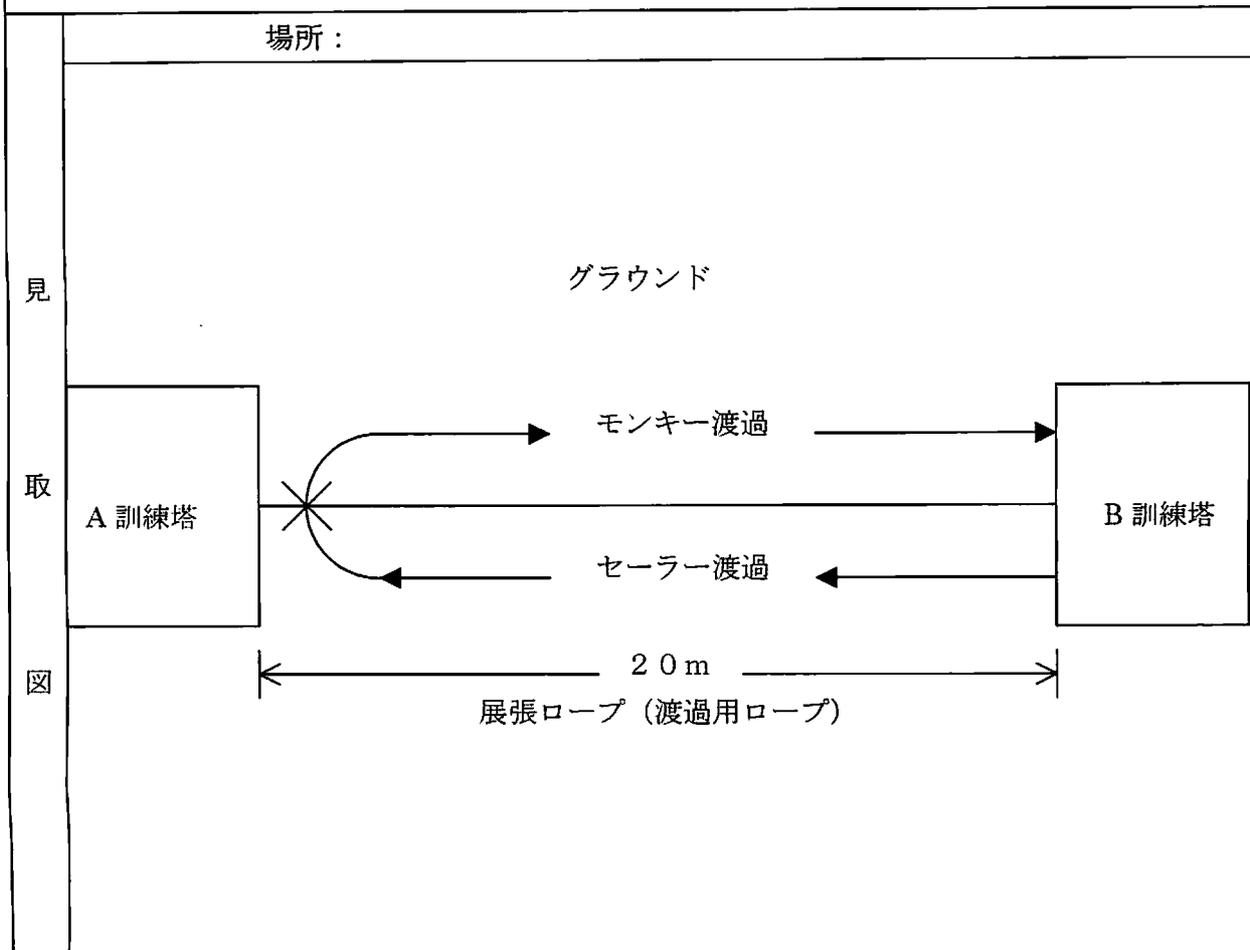
○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

各訓練後、指揮者が異常の有無を確認するようになった。

現場附近見取図及び道路の状況



道路の状況	路面	舗装	非舗装		平坦	こう配 上り、下り	凸	凹	
		乾燥	ぬかるみ	湿潤	積雪	凍結			
	交通の状況等	交通ひんぱん		交通閑散		市街地	非市街地		
		程度							
	交通規制	速度	km/h	警笛ならせ	一時停止	その他 ()			
明暗見通し	昼間	夜間	街路灯	あり、なし	見とおし	良い、悪い			

- (注) 1. 被災現場の位置図及び写真は別紙とすること。
 2. 被災当日の行動を矢印で示し、被災地点は×印を記入し、その後の予定は点線又は色分けをすること。
 3. 道路の状況の欄は、該当する項目に○印を記入し、空欄と程度、速度の項目は該当事項を記入すること。